



平成 17年 3月期 第 1 四半期業績の概況 (連結)

平成 16年 8月 9日

上 場 会 社 名 電気化学工業株式会社 (コード番号: 4061 東証第1部)

(URL <http://www.denka.co.jp>)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 氏 名: 晝間 敏男
 問合せ先責任者 役職名 取締役経理部長 氏 名: 南井 宏二 TEL (03) 3507 - 5097

1. 四半期業績の概況の作成に係る事項

売上高等の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 有 減価償却費や法人税等の計上など、一部
 における認識の方法との相違の有無 簡便的な方法を採用しております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 (連結: 新規1社)

2. 平成17年3月期第1四半期業績の概況 (平成 16年 4月 1日 ~ 平成 16年 6月 30日)

経営成績 (連結) の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年 3月期第 1 四半期	61,857	7.2	4,634	-	3,927	-	2,221	-
16年 3月期第 1 四半期	57,720	-	-	-	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	251,116		21,451		17,610		10,554	

	1 株 当 たり 四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後 1 株 当 たり 四半期 (当期) 純利益	
	円	銭	円	銭
17年 3月期第 1 四半期	4.60		4.59	
16年 3月期第 1 四半期	-		-	
(参考) 16年3月期	21.70		21.69	

(注) 1. 売上高におけるパーセント表示は、対前年第1四半期増減率であります。
 2. 売上高以外の項目につきましては、当第1四半期より開示を行っておりますので、前年第1四半期及び対前年第1四半期増減率は記載しておりません。

セグメント別連結売上高

	17年3月期 第 1 四半期	16年3月期 第 1 四半期
	百万円	百万円
有機系素材事業	25,220	23,567
無機系素材事業	10,071	9,717
電子材料事業	7,487	6,522
機能・加工製品事業	12,633	11,911
その他事業	6,445	6,001
全社計	61,857	57,720

なお、平成16年6月29日付で、電気・電子、磁気、半導体、光関連製品を中心とする電子材料事業の更なる拡大を目指し「電子材料事業本部」を新設する等、各事業部門の機構改革と研究開発体制の再編を行ったことに伴い、下記の事業区分に変更しております。

事業区分	主要製品
有機系素材事業	ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、スチレン/マ、酢酸、酢ビ、クリルン、耐熱・透明樹脂、クロロレンゴム、アセチンブラック ほか
無機系素材事業	肥料、カーバイト、耐火物、セメント 特殊混和材 ほか
電子材料事業	溶融シリカ、電子回路基板、ファインセラミックス、電子包装材料 ほか
機能・加工製品事業	食品包装材料、ワチン、関節機能改善剤、診断薬 ほか
その他事業	プラントエンジニアリング ほか

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報]

当第1四半期のわが国経済は、米国経済の回復に伴う輸出や設備投資が増加するとともに、個人消費も持ち直すなど、着実な回復基調で推移しました。化学業界においても輸出や電子機器関連を中心に需要は順調に回復しましたが、原油・ナフサ価格の高騰に伴う原材料価格の上昇が収益圧迫要因となっており、製品価格の是正が懸案事項となっております。

このような状況のもと、当社グループは業容の拡大と収益の確保に努めました結果、当第1四半期の売上高は61,857百万円、営業利益は4,634百万円、経常利益は3,927百万円、当期純利益は2,221百万円となりました。原料価格の高騰の影響を製品価格の修正と販売数量の増加で補った結果、売上高は当初の想定を若干上回っておりますが、利益面は当初の想定範囲で推移しております。

有機系素材事業では、スチレンモノマーは定修の影響もあり、販売数量は減少しましたが、原料コストの高騰を受けて販売価格は国内外とも大幅に上昇したことから、増収となりました。子会社デンカシンガポールP.L.のポリスチレン樹脂は堅調に推移いたしました。機能性樹脂は国内外とも、透明ポリマー、特殊樹脂"クリアレン"を中心に販売数量を伸ばした結果、大幅な増収となりました。クロロプレンゴムは、自動車用途関連や接着剤用途を中心に国内外とも販売数量を増加しました。

無機系素材事業では、日本重化学工業株式会社から譲り受けた腐植酸苦土肥料"アゾミン"他の販売を昨年7月に開始したことにより肥料が増収となりました。セメントは、販売価格は低下しましたが、販売数量は堅調に推移しました。特殊混和材は総じて公共投資等、全般的な工事量の減少により低調に推移しました。

電子材料事業では、電子回路基板等の電子部材、及び機能性セラミックスは、IT関連需要の回復などにより好調に推移しました。

機能・加工製品事業では、包装資材はOP S（二軸延伸ポリスチレンシート）が順調に販売数量を伸ばし増収となりました。医薬におきましては、関節機能改善剤"スペニール"は堅調に推移しましたが、子会社デンカ生研（株）はウイルス検査薬の出荷の期ずれ等もあり若干の減収となりました。

その他の事業はエンジニアリング子会社の受注は低調でしたが、商社の販売が堅調に増加いたしました。

3. 17年 3月期中間期の業績予想（平成 16年 4月 1日 ~ 平成 16年 9月 30日）

(1) 連結業績予想

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
中間期	131,000	8,500	5,000

(2) 単独業績予想

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
中間期	101,000	7,500	4,500

(注) 販売数量の増加と、原料価格の高騰の影響を製品価格の修正で補った結果、売上高は当初の想定を若干上回っておりますが、利益面は当初の想定範囲で推移しておりますため、中間期売上高の予想のみを修正しております。

なお、通期の業績予想については、連結・単独とも中間決算発表時に見直しを行う予定です。

上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。